

高等学校における探究活動に対する支援に関する意見書

私たちエンリッチコアメンバーは、長年、可児市役所や可児市議会と連携して地域に根差した「探究活動」を続けてきました。本年度、学習指導要領が改訂され、本校の時間割の中に週1時間の「探究」が位置付けられ、次年度から本格的に、一年生はグループ探究、そして二年生が個人探究を行う予定になっています。

今回、1年生の学年探究活動の成果として二つのグループが探究内容を発表しました。「高校生個々の課題意識」と「地域課題」を結び付けて考えていくことで、私たちはそれまで関心が薄かった地域課題について学びを深め、将来の地域の担い手としての意識を高めました。地域が高校生の探究活動を支援することで、将来の担い手の確保と地域の活性化につながると確信する所です。また、選挙権が18歳で与えられ、責任もって地域の事を考え、主体的に行動を促すことが求められています。可児高等学校のエンリッチ活動がその一助になるとも考えています。

これからの可児市を含め多くの地方自治体が人口減少に直面しますが、より住みやすく、過ごしやすい街づくりを進め、持続可能な社会づくりに「高校における探究活動」を地域としても活用する仕組みづくりが必要だと考えます。

長年連携をしてきた本校と可児市役所・可児市議会ですが、「個々の探究課題」を一緒に考えていくパートナーを探す際に、窓口が定まらず、「どこと連携していいかわからない」といった問題が出てきました。高校生の中には「自分たちの問い合わせが窓口業務を妨害していないか心配」する声もあります。

以上のことから次の一点について要望します。

記

- 1 可児市役所内に若者の探究活動を支援する部署を設置すること。

令和5年3月24日

岐阜県立可児高等学校

1年 和田 海愛

可児市議会 議長 板津 博之 様